



会社概要

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ

<https://www.adkms.jp/>

業種：マーケティング/ 広告会社

従業員数：

1,270 名 (2019 年 1 月現在)

資本金：1 億円 (2019 年 1 月現在)

所在地：〒 105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目 23 番 1 号 虎ノ門ヒルズ森タワー

事業内容：

株式会社 ADK ホールディングスを持株会社とした ADK グループの事業会社として、2019 年 1 月に設立。共感性の高いブランド体験をさまざまな接点で創造している。提携会社とも連携しながらデジタル領域のソリューション力を高め、クライアントと併走しながら迅速に PDCA を実践。クライアントのあらゆる課題に向き合い、マーケティング領域における総合的なソリューションを提供している。

導入製品

導入時期：2018 年 3 月

導入製品：

Tableau Creator ライセンス数：100

Tableau Viewer ライセンス数：100

主な利用環境：社内・社外の多岐にわたるデータソース

導入に要した期間：1 か月

BI CoEを設置しデータドリブンカルチャーを推進 BIツールとしてTableauを活用し競争優位性の獲得へ

Before 導入前の課題

以前はクライアントへのレポート業務で Excel などを活用していたが、データ量が数百万～数億行に達することもあり、これを問題なく扱える BI ツールが必要になっていた。また企業競争力を高めるためには、データドリブンカルチャーを定着させることも重要な課題になっていた。

After 導入後の効果

膨大なデータでも、ローデータのままでスピーディかつ深い分析が可能になった。Tableau のダッシュボード提供は顧客からも喜ばれており、新たなビジネスチャンスにもつながっている。

導入の背景

消費者を動かすプロフェッショナルとして、顧客のマーケティング領域における総合的な課題解決を支援している ADK マーケティング・ソリューションズ。デジタル領域におけるソリューション強化も積極的に推進、データを活用したデータ・ドリブン・マーケティングを実践する体制構築にも取り組んでいます。

「以前は、深い分析を行うプランナーなどは SPSS や Access を使っていましたが、ほとんどの簡易な分析は Excel を使っていました」と振り返るのは、DDM 戦略デザインセンター 第 1 戦略デザインユニット 第 1 アーキテクトグループでグループ長を務める正木 洋介 氏。しかし 10 万行程度のデータであれば Excel でも取り扱いましたが、最近では 100 ～ 200 万行に及ぶことも珍しくなくなり、場合によっては 1 億行を超えることもあるため、データが重すぎて何もできない状況になっていたと言います。

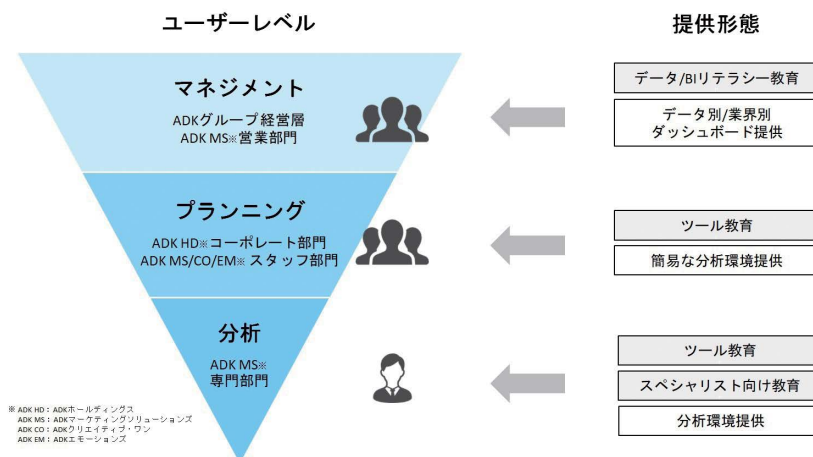
この問題を解決するため、新たな BI の導入検討に着手。複数の BI 製品を比較検討する中、有力候補となったのが Tableau だったと語ります。

「実はすでに 2013 年頃から社内データ基盤プロジェクトの分析環境として、一部の部署が Tableau を使っていました」と言うのは、DDM 戦略デザインセンター 第 1 戦略デザインユニット 第 1 アーキテクトグループの安西 麻里子 氏。それまでは「グラフは Excel で描くもの」だと思こんでいましたが、Tableau と出会うことでこの意識が根本から覆されたと語ります。「分析業務の目的も、レポートを書くという意識から、データをどう見ていくかへと変わっていきました」。

すでに社内ですぐに成果を挙げているのであれば、これを全社で使うべきではないか。このような考えから、2019 年 6 月には Tableau の勉強会や情報発信を開始。2020 年 1 月には「BI CoE (Business Intelligence Center of Excellence)」を設置し、Tableau を活用した組織横断型でのデータ活用プロジェクトがスタートするのです。

Tableau 導入・運用環境

ここでまず着手されたのが、バックオフィス系業務での Tableau 活用でした。経営指標などの社内向けデータの分析や可視化が進められています。これと並行してプランナーに対する Tableau 勉強会も本格的に展開。全社員が Tableau を活用し、必要なデータ分析を自由に行える環境の整備とスキル



お客様プロフィール

お名前: 正木 洋介 様

役職: グループ長

部門名:

DDM 戦略デザインセンター 第1戦略デザインユニット 第1アーキテクトグループ

主な担当業務:

クライアント向けのデータ基盤構築やダッシュボード構築、社内のデータ活用推進活動、ツールベンダーとのアライアンス策定など

お名前: 安西 麻里子 様

部門名:

DDM 戦略デザインセンター 第1戦略デザインユニット 第1アーキテクトグループ

主な担当業務:

クライアント向けのデータ基盤構築やダッシュボード構築、社内のデータ活用推進活動、ツールベンダーとのアライアンス策定など

Tableauについての質問

Q1. Tableau で感動したことは？

「スピードです。膨大なデータ量になると、動きが著しく遅くなることがありますが、Tableau ではそのようなことは起きません。また外部のデータソースに対するコネクタが数多く揃っている点も魅力です」

Q2. Tableau 導入後の変化は？

「データを受けとったときに、そのデータ全体のアウトラインが把握しやすくなりました。複数の属性軸で切ってみるなど、まるで粘土をこねるように、直感的にデータを扱えるからです」

Q3. Tableau でしたいことは？

「クライアント業務だけではなく、社内の経営指標や予算管理、営業状況や労務管理データの可視化を進めたいと考えています。こういったものを社内のイントラネットに組み込むことも検討中です」

習得を、数年以内に実現することが目指されています。

さらにこれらと並行して、クライアント向け業務での活用もスタート。広告出稿のデータやデジタルメディアに関する Google Analytics のデータ、クライアントと共に実施するアンケート調査のデータ、テレビの視聴率や広告に関する統計データなど、多岐にわたるデータが分析対象となっています。

「クライアント様向けの業務では、データベースに直接つなぐことができないケースも多いので、いったん Excel 等のファイルにエクスポートし、これを Tableau Prep で変換・加工した上で Tableau に取り込んでいます。その一方で、弊社とご共有いただいている Google Analytics や広告出稿に関するデータは、Tableau を直接つないで分析することが多くなっています」(安西氏)。

クライアント向けダッシュボードは、クライアント毎にカスタマイズしたものをローカルファイルとして提供。クライアント自らがダッシュボードを操作し、多角的な分析や可視化を行えるようにしています。社内における Tableau へのアクセスは、社内の Active Directory と連携した認証システムによってコントロール。社内の組織情報と Tableau のパーミッションとの連携も進めており、2020 年末までにはその環境を完成させる予定です。

Tableau 選定の理由

ADK マーケティング・ソリューションズが、組織横断型 BI ツールとして Tableau を選択した理由は、大きく 4 つあります。

第1は特定のデータ形式に依存しないことです。分析対象となるデータフォーマットはクライアント毎に異なるケースが多く、調査データも固定的なテンプレートは用意されていません。このような状況での分析は他の BI ツールでは難しいのですが、Tableau なら問題なく対応できます。

第2は多様なデータソースに接続できることです。クライアント向け業務で分析対象となるデータソースは、あくまでもクライアントから指定されるものであり、こちらから指定するものではありません。多様なデータソースに対するコネクタが揃っていることは、このような業務では必要不可欠な条件だと言えます。

第3は大容量データでもローデータのまま、スピーディに分析できることです。データ量はデータソースによって大きく異なりますが、ログデータでは最大で数億行になるケースもあります。Tableau ならこれだけの規模のデータも問題なく扱えます。

そして第4が、クライアントでの導入数が多いことです。「大手のクライアントでは No.1 のシェアを持っているのではないのでしょうか」と安西氏は指摘。そのためクライアントに Tableau を提案した場合、抵抗なく受け入れられることが多いのだと言います。

「これは間違いなく、データ分析を加速する新時代のツールです。また圧倒的なビジュアライズ機能とデータ加工機能、コネクタ機能を併せ持っており、社内にエンジニアがいなくても簡単に使いこなすことが可能。これも大きな強みだと感じています」(安西氏)。

Tableau 導入効果

組織横断型で Tableau を活用した結果、次のようなメリットが得られています。

業務時間の短縮

以前はレポートのためのデータ集計・加工・分析をプランナーが手作業で行っていましたが、これを Tableau でテンプレート化・簡略化することで、業務時間が大幅に短縮されました。以前は 1~2 週間かかっていたアンケートデータのレポートも、いまでは 3~4 日で提出できるようになっています。

顧客満足度の向上

リアルタイム性の高い、より深いデータ分析が可能になったことで、クライアントの満足度が向上しました。また Excel では分析軸が 2 軸に制約されていましたが、Tableau は 3 軸、4 軸での分析も可能になり、必要な知見を効率よく得られるようになっています。その結果、広告提案だけではなく、データコンサルティング業務やデータ可視化に関する引き合いも増えています。

データ分析に関する情報入手

Tableau には活発なコミュニティが存在しており、そこに参加することで BI に関する多様な情報が得やすくなったことも、高く評価されています。「製品の使い方だけではなく、データ分析に関する上位レベルの情報も入手できます」と正木氏。「BI 製品でこれだけのコミュニティが存在するものは、Tableau 以外にはありません」。

今後の展開について

現在はダッシュボードの共有をローカルファイルで行っており、Tableau Server はまだ使われていません。社内の共有データに関しては今後、Tableau Server で全社向けのダッシュボードを共有し、プランナーがセキュアに活用できる環境を整備していく計画です。

「個々の社員がデータに触れられる土台が、Tableau によって徐々に出来上がってきています」と正木氏。今後は社内にもコミュニティを立ち上げ、データ活用をさらに活性化していきたいと語ります。「いま目指しているのは、従業員のスキルアップ、データドリブンカルチャーの推進、そしてこれによる競争優位性の獲得です。この 3 本柱で取り組みを進め、データ活用が当たり前に行われる企業文化を、今後数年で定着させたいと考えています」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

Tableau Software (Email: japan@tableau.com)